

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年12月)

～訪日客効果や年末商戦の好調で、現状判断は2か月連続の上昇～

- 景気ウォッチャー調査・12月調査の近畿地域の結果は、現状判断が50.3と前月比で2か月連続の上昇(+0.7ポイント)となった。好不調の目安となる50も3か月ぶりに上回っている。また、先行き判断も50.8と2か月連続の上昇(+3.3ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加が続く中、関連業種では需要の増加が継続している。特に、百貨店やレジャー施設、都市型ホテルなどを中心に、売上へのプラス効果がみられる。また、新型コロナの5類移行後、初の年末商戦を迎えたことで、いわゆるハレの日消費が大きく増加している。百貨店やレストランのほか、スーパーなどでも売上のプラス材料となった。
- ただし、物価の上昇が続く中、幅広い業種に悪影響が広がる状況に変化はない。スーパーをはじめとする小売関連を中心に、節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化が広がっている。
- 先行きについては、引き続きインバウンドの増加が見込まれ、百貨店やレストラン、コンビニなどを中心に、売上の増加等を期待する声が多い。特に、春節が控えていることもあり、中国人客の増加を予想する声は多い。過度な円安は落ち着きつつあるが、円安水準そのものは続いていることから、インバウンド市場全体の先行きには楽観的な声が少なくない。
- また、今春は前年に続いて大規模な賃上げが見込まれる中、それに伴う好影響を期待する声も上がっている。雇用情勢に関しては、人手不足への不安が根強いものの、足元の実質賃金の前年割れを懸念する動きが多いだけに、今春の賃上げによる実質賃金のプラス転換への期待は大きい。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーを中心とした小売関連やレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。加えて、中東をはじめとする世界情勢の不安定化により、世界経済の成長鈍化のほか、原油等の諸コストの上昇を招くといった不安は引き続き強い。

「クリスマス・年末商戦」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・12月に入って来客数が10%以上増え、ボーナス商戦、クリスマス商戦共に順調な推移となった。来客数に比例して、売上も2けた以上の伸びとなったほか、クリスマスの曜日巡りも追い風となり、24日は12月で最高の売上となった。ラグジュアリー関連のバッグやジュエリーも引き続き好調で、年末のインバウンド需要も含め、円安の影響で高額品の購入が目立った。一方、暖冬の影響で重衣料は不調となったが、単価の上昇と来客数の増加で、全体的にギフト需要が伸びたほか、食料品も前年を上回る売上となっている。
	なややかに良くなっている	百貨店(売場主任)	・年末商戦に入ってから、特に食料品の単価が上昇している。おせちの予約を含め、前年よりも大人数用の商材が好調である。コロナ禍が取束し、客もいよいよ通常のスケジュール感に戻ってきたと感じる。

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（マネージャー）	・年末に向けて人の流れが多くなり、来客数も増えているが、衣料品は気温の変動に左右されるため、やや不安定である。一方、化粧品関連は好調なほか、食品もスイーツのイベント販売などが好調であるが、物価の上昇で牛肉が不振であるほか、人流の回復で外食に需要が流れていることで、総菜関連も苦戦している。	
		百貨店（商品担当）	・12月に入り、月初は販売量の動きが鈍かったが、中旬以降は、気温の低下と共に防寒衣料が動き出し、クリスマス商戦も比較的好調となっている。	
		スーパー（企画）	・月初めから売上は好調であり、クリスマス商戦も良い結果となった。年末もこの流れが続くことが期待される。	
		一般レストラン（経営者）	・年末の宴会シーズンに入り、2019年以前よりも来客数、売上共に増えているなど、確実にコロナ禍の影響は無くなっている。特に、20名から30名の宴会需要が増えている。また、繁華街は旅行者や買物客でかなりにぎわっており、今後の景気回復に期待できる。	
		一般レストラン（店主）	・来客数の波はあるが、年末や冬休みのため、客は動いている。ただし、キャンペーンの有無の影響も大きく、今年はキャンペーンがないため、かなり暇な日もある。	
		都市型ホテル（販売促進担当）	・12月はかつての傾向どおり、クリスマスディナー前後の来客数は多かった。今月のレストランは前年と比べて、月後半ににぎわう形となった。一方、客室部門の稼働率は76%と安定していたが、単価はそれほど高くなく、近隣のホテルも同じような状況となっている。	
	変わらない	やや悪くなっている	百貨店（販促担当）	・街の人出は多く、来客数も前年を上回る推移となっている。ただし、クリスマス需要は堅調な一方、防寒ファッションは苦戦している。気温の乱高下が最大の要因で、今月に入って動きが鈍くなっている。物価の上昇も続いているが、食品の動きは堅調である。
			百貨店（マネージャー）	・全体的な傾向は変わらず インバウンドの動きは好調で、富裕層も堅調な一方、中間層は節約が続くという傾向が続いている。国内の中間層では、化粧品だけが好調を維持している。クリスマス商戦での外食や菓子の販売は、メリハリ消費の影響で増えているが、その反面、生鮮3品などは買上点数が微減となっている。また、衣料品関連も購入に力強さはみられず、一進一退の状態である。
			スーパー（経理担当）	・クリスマス商戦は曜日巡りの関係で、購入の前倒しやホームパーティー需要の増加がみられ、全体として堅調な動きとなった。年末商戦も天候面での不安はあったが、大きく崩れず、底堅い動きとなっている。足元は物価の上昇が続いているものの、ハレの日の消費は悪くない。
			スーパー（社員）	・商品単価の上昇により、前年の後半から売上の増加が続いていたが、前月以降は増勢がやや鈍化している。ただし、客はハレの日の消費には意欲的であり、今年はお歳暮やクリスマスといった年末商材の動きが堅調である。
コンビニ（店長）			・今年のクリスマスの販売も前年とほぼ同じであり、売上もほとんど変わっていない。人の動きとしては、寒い日が少ないため、比較的良好と感じている。	
衣料品専門店（店長）			・月初は来客数が順調に推移していたが、中旬以降はやや芳しくない状況が続いている。客単価は前年並みのため、売上は前年並みで推移しているが、クリスマス商戦の動きは良くない。	
その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）			・来客数が伸び悩むなか、売上は前年比プラスとなり、年末商戦では住宅用の掃除用品の売上が特に伸びた。生活に必要な商品は買いためする傾向もあり、お買い得なクーポンの活用が必須となっている。	
その他専門店〔医薬品〕（管理担当）			・年末商戦に入り、化粧品やカウンセリング化粧品の売上が増加している。また、感冒薬などの医薬品の売上も、増加傾向が続いている。日用雑貨や家庭用品の売上は減少したが、3か月前比で、客単価、1品単価共に増加となっている。	
旅行代理店（支店長）			・年末年始を迎えてボーナスが支給され、客の財布のひもも少し緩むと予想していたが、日用品や生活必需品の値上がりにより、旅行に予算を割く余裕のない客が増えている。円安傾向も少し落ち着いているが、海外旅行の割高感の否めず、全体的な景況感には変わらない。	
美容室（店員）			・12月は書き入れ時であり、年末のイベントも多く、単価が上がっている。	
悪くなっている	やや悪くなっている	スーパー（企画担当）	・値上げの影響もあり、年末商戦ではクリスマスケーキやおせちの予約が、前年よりも減少傾向となった。おもてなし関連や、際物商材の販売量も減っている。必要な物だけを購入し、衝動買いなどは控えるといった節約モードになっている。	
		家電量販店（企画担当）	・年末年始商戦が盛り上がり欠けている。来客数が前年比で激減しており、それに暖冬が追い討ちを掛けている。	
		乗用車販売店（販売担当）	・年末に向けて、駆け込みでの購入がもう少しあってもよいと感じた。仮に、かつての水準まで売上が伸びたとしても、物価の上昇により、購買意欲は低下している感が強い。	
企業関連	なっている	通信会社（社員）	・年末にかけて契約が取りにくい状況となっている。ボーナスの支給状況は改善しているものの、通信サービスなどの需要は余り高まっていない。	
		食料品製造業（従業員）	・業務用商品の受注が増えるなど、外食関係は良くなっている。さらに、初詣や十日戎などの屋台も、来年は以前のようなにぎやかさに戻るため、年末の受注増加につながっている。	

雇用関連	な や や 良 く な っ て い る	人材派遣会社（管理担当）	・外国人旅行者、国内旅行者共に増加し、観光業界の動きが活発化している。一方、年末年始を迎えて観光業界は人手不足に陥っているのに伴い、求人数、求人単価が上向いている。
	変 わ ら な い	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・やや円高傾向が進んでいるため、年末年始にかけてのインバウンドの動きは不透明であるが、まだ関西の観光地は多くの外国人でにぎわっている。今月はボーナス支給の影響もあり、国内客の動きも良く、消費関連の業界はおおむね好調のようだ。一方、関西に多い製造業の中小企業からは、景気の良い話よりも不況に関する声が多いなど、業界による好不調の差がみられる。

「為替・円安」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	や や 良 く な る	衣料品専門店（営業・販売担当）	・為替レートの改善が少し進んでおり、仕入コストが下がると予想される。
		一般レストラン（経営者）	・繁華街は年始の需要のほか、春節で海外からの観光客の需要も増える。また、もうしばらくは円安の影響もあるため、景気は回復傾向が続くと予想される。一方、飲食店は宴会や食事会の需要はあるものの、これまでのような2次会や3次会の需要が格段に減っている。コロナ禍に伴う時間の使い方の変化や、終電時間の前倒し、深夜利用の減少により、深夜まで営業していた店舗も営業時間を短縮している。また、人材不足や仕入価格の上昇の影響など、様々な要因で飲食店での利益の確保が難しくなっている。
	変 わ ら な い	衣料品専門店（店長）	・この半年間は好調を維持していたが、ここへきて前年並みとなっている。輸入生地や材料の価格が円安の影響で上がっているため、販売価格も上げざるを得ない。そのため、年末年始での低価格品を狙った客の来店が落ち込んでいる。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円安傾向に歯止めが掛かったようにみえるが、すぐに物価や消費者の意識が変わるわけでもなく、様子見の動きが続く。
		一般レストラン（企画）	・円安による物価の上昇は少し落ち着きをみせているが、実質賃金が前年を下回る状況では財布のひもは緩まず、良くなるとは思えない。次の春闘に期待したい。
		都市型ホテル（管理担当）	・円安効果によるインバウンド需要の増加に期待しているが、国内需要は現状維持となるため、状況は現状と大きく変わらない。
		都市型ホテル（客室担当）	・円安傾向が続いているうちは、インバウンドの動きを含めて、状況は余り変わらないと予想される。
	な る 悪 く	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・為替の急激な変動などで、力強い消費は期待できない。当面はインバウンドに依存せざるを得ない。
		通信会社（経営者）	・円安傾向の影響で、原材料価格が高くなる。
		住関連専門店（店長）	・春は必ずというほど円安に傾く時期なので、原価が更に上がることはほぼ確実である。
	な 良 く	木材木製品製造業（経営者）	・為替レートが以前よりも円高傾向であり、仕入価格が抑えられるため、利益は少し増加傾向となる。
	や な る 良 く	繊維工業（総務担当）	・円安の状況が少しずつ緩和され、ガソリンや原材料価格、電気代などのコストが軽減される。
	な い	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・しばらくは円安によるインバウンド効果が期待できるが、肝心の国内客の消費は年末年始を境に、いよいよ落ち込んでいくと予想される。
	悪 く な	金融業〔投資運用業〕（代表）	・当面は国民の経済的な打撃が和らぐことはないが、来年は円安も一段落しそうな気配であり、景気の回復が期待される。一方、電力各社は相応の利益を確保している状況から、電気代の値下げを期待したい。
	企業関連	変 わ ら な い	新聞社〔求人広告〕（管理担当）
雇 用		変 わ ら な い	その他雇用の動向を把握できる者

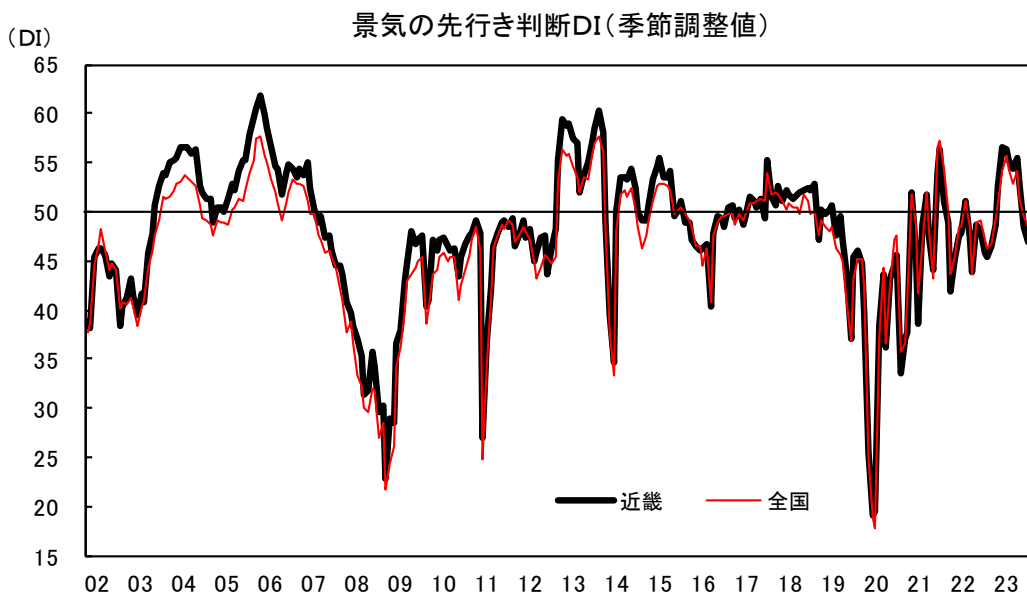
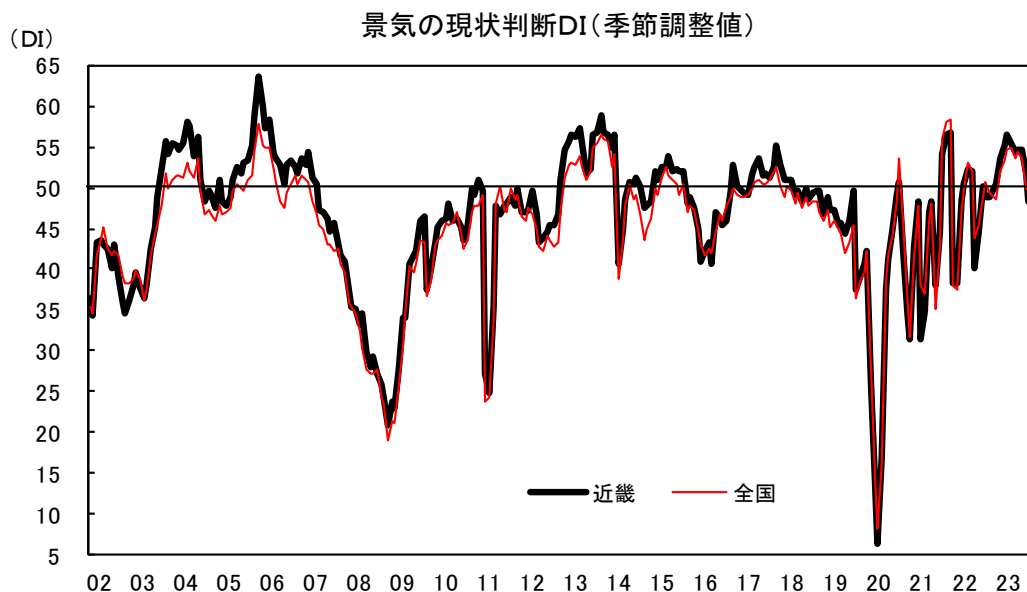
「世界情勢」関連のコメント(先行き判断)

家計関連	やや悪くなる	乗用車販売店（経営者）	・政権政党の政治資金問題や大手自動車メーカーの不正問題、ウクライナ危機、ガザ地区での紛争など、すぐに解決できる問題はない。来年の前半についても、これらの国内外の問題が収束するまでは、景気は上向かない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当） 電気機械器具製造業（宣伝担当）	・コロナ禍の収束により、関連需要も回復傾向にある。海外での紛争といった不安材料はあるが、特に大きな変化はなく、現状維持での推移が予想される。 ・年明けから大手電力会社5社の値上げなど、家計への負担が増えるほか、世界情勢も不安定な状況が続いている。
企業関連	悪くなる	化学工業（経営者）	・海外の金融政策の影響で外国企業の投資意欲がかなり落ち込んでおり、大手の取引先からは、年明けからの受注は大幅に減るといわれている。それに伴い、今後は景気が冷え込むと予想される。
		人材派遣会社（役員） 新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人数、求職者数は、今後も一定の水準以上で推移しそうであるが、企業が欲しい人材とのマッチングが進んでいるとは言い難い。また、世界情勢や国内の金融政策、インフレ動向などの不透明感が拭えないなか、景気が上向く材料は少ない。 ・一時に比べて国内のインフレもやや落ち着きをみせ、為替もやや円高方向に転換したと感じる。ただし、日本銀行によるマイナス金利の解除が取り沙汰されるなか、短期的には景気にマイナスの影響が出る可能性もある。また、世界的には相変わらず紛争やインフレが続いており、不安定化した状況にも改善はほとんどみられない。足元の国内景気は比較的安定しているが、国内外の情勢によっては、好不調のどちらにも変化する可能性がある。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・建設業や製造業では、原材料価格の高騰や中国景気の減速などで、求人の更新を見合わせる事業所が散見される。
		その他雇用の動向を把握できる者	・今後も引き続き、業種を問わず人手不足の声が多い。また、建設業や製造業を中心に、原材料価格や燃料価格、人件費等の高騰による利益の圧迫のほか、受注の減少、中国経済の減速、円安による影響への厳しい声も多い。全体的に大きく変化する要素はないため、新規求人数の緩やかな減少が続くと予想される。

「人手不足」関連のコメント(先行き判断)

家計関連	やや良くなる	一般レストラン（経営者）	・繁華街は年始の需要のほか、春節で海外からの観光客の需要も増える。また、もうしばらくは円安の影響もあるため、景気は回復傾向が続くと予想される。一方、飲食店は宴会や食事会の需要はあるものの、これまでのような2次会や3次会の需要が格段に減っている。コロナ禍に伴う時間の使い方の変化や、終電時間の前倒し、深夜利用の減少により、深夜まで営業していた店舗も営業時間を短縮している。また、人材不足や仕入価格の上昇の影響など、様々な要因で飲食店での利益の確保が難しくなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・2月から3月は需要が落ち着く時期であるが、リピーターを中心に予約が入っている。団体客も確保できており、人手不足への心配はあるものの、状況は上向いている。
企業関連	変わらない	輸送業（営業担当）	・細かく分かれていた店舗の集約や、サービスレベルの引下げなど、時代の流れに逆行する対応を進めることで、人手不足が解消できそうである。
		建設業（経営者）	・今後は大阪・関西万博の工期遅れの影響で、技能労務者不足が深刻になる見込みである。最終段階では内装関連業者の不足が心配されるほか、一時的な建設資材価格や賃金の高騰も予想される。
雇用関連	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・人手不足が厳しい建設業界などは、時給を上積みする傾向にある一方、それ以外の業界は現状維持が多い。
		民間職業紹介機関（職員）	・大手ゼネコンが、資材価格が上昇する前に受注した工事が、今後本格的に動き出す予定である。発注者への価格交渉も困難ななか、大手ゼネコンから下請事業者への請負額の低下が予想される。それに伴い、慢性的な人手不足にある下請事業者が、求人募集でどこまで労働条件を引き上げられるかは、今後の課題の1つである。
		その他雇用の動向を把握できる者	・今後も引き続き、業種を問わず人手不足の声が多い。また、建設業や製造業を中心に、原材料価格や燃料価格、人件費等の高騰による利益の圧迫のほか、受注の減少、中国経済の減速、円安による影響への厳しい声も多い。全体的に大きく変化する要素はないため、新規求人数の緩やかな減少が続くと予想される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年22年												23年												
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
現状判断	近畿	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5	54.6	54.7	51.8	48.3	49.6	50.3
	(全国)	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6	54.4	53.6	49.9	49.5	49.5	50.7
先行き判断	近畿	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3	55.4	52.9	48.4	46.9	47.5	50.8
	(全国)	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8	54.1	51.4	49.5	48.4	49.4	49.1

※季節調整値